



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月13日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名  
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)長谷川栄胤  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理部長 (氏名)増井敏樹 (TEL) (052)222-8202  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業損失		経常損失		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	366	-	△51	-	△48	-	29	-
26年3月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	0.60	-
27年3月期第3四半期	-	-

※ 当社は、平成26年3月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、平成27年3月期第1四半期より非連結の業績を開示しております。そのため、平成26年3月期第3四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	4,546	4,184	92.0
27年3月期	4,768	4,153	87.1

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 4,184百万円 26年3月期 4,153百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	-	-	-	0.00	0.00
27年3月期	-	-	-	-	-
27年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	476	△6.3	△45	-	△43	-	37	△98.5	0.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無  
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無  
(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年3月期3Q	49,243,000株	26年3月期	49,243,000株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	42,925株	26年3月期	40,214株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年3月期3Q	49,201,744株	26年3月期3Q	32,266,684株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。また、当社は当第3四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、政府の経済政策や金融緩和を背景に、景気の緩やかな回復の動きが見られましたが、消費税引き上げによる個人消費の低迷や円安による輸入原材料の値上げで物価上昇の懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いています。

レジャー業界においては旅行業界が徐々に回復が進んでいるのと比較すると、興行業界は未だ回復が進んでおらず依然厳しい環境が続いています。

そのような中、平成26年10月に売上の主力である歌舞伎公演「錦秋名古屋顔見世」を上演しました。その売上高は、前年実績を大きく上回り、概ね当初予算を達成することができました。しかしながら、公演に伴う各種費用が当初予算対比超過いたしました。

その結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高3億6千6百万円となりました。利益面では、営業損失5千1百万円、経常損失4千8百万円、四半期純利益2千9百万円となりました。

なお、当社の報告セグメントは当第3四半期累計期間より単一セグメントですので、セグメント別の記載は省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の部)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、44億9千1百万円となり、前事業年度末に比べ8億3百万円の増加となりました。この主な要因は、未収入金が9億9千2百万円増加したものの、現金及び預金が1億3千4百万円、売掛金が2千8百万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、5千4百万円となり、前事業年度末に比べ10億2千4百万円の減少となりました。この主な要因は、長期未収入金10億円が未収入金へ振替えられたことによるものです。この結果、総資産は、45億4千6百万円となり、前事業年度末に比べ2億2千1百万円の減少となりました。

#### (負債の部)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、1千7百万円となり、前事業年度末に比べ2億5千万円の減少となりました。この主な要因は、買掛金が8千9百万円、未払法人税等が5千3百万円減少したことによるものであります。固定負債の残高は、3億4千4百万円となり、前事業年度末に比べ1百万円未満の減少となりました。この結果、負債合計は、3億6千2百万円となり、前事業年度末に比べ2億5千1百万円の減少となりました。

#### (純資産の部)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、41億8千4百万円となり、前事業年度末に比べ3千万円の増加となりました。この主な要因は、利益剰余金が2千9百万円増加したことによるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

国内では少子高齢化・人口減少の時代となり、企業収益もグローバル競争の中で業績の二極分化がさらに進むことが見込まれます。前年度末には消費税増税前の駆け込み需要もあり景気回復基調となりましたが、個人消費の全体的な引き上げまでにはいたっておらず不透明な状態が継続していることから、演劇興行を主とする当社にとりましては、なお非常に厳しい経営環境が続くことは避けられないものと予想されます。

こうした状況に対処するため、当社は、迅速な意思決定を図り、経営の合理化をさらに推し進めるとともに、潜在需要を開拓し、売上向上と顧客満足のために営業活動を展開していくことが最重要課題であると考えております。

劇場事業では、歌舞伎公演を軸に多様化する顧客ニーズを的確に踏まえた演劇の提供を図り、演劇ならびに劇場空間を充実させ、魅力のある興行を実施してまいります。

なお、当社は本日業績予想を修正しております。詳細は本日公表いたしました「業績予想の修正のお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,599,739	3,464,809
売掛金	32,550	4,063
貯蔵品	685	644
未収入金	8,366	1,000,439
その他	50,456	24,556
貸倒引当金	△2,942	△2,572
流動資産合計	3,688,856	4,491,940
固定資産		
有形固定資産		
建物	677	505
土地	1,129	1,129
リース資産	4,936	2,590
有形固定資産合計	6,743	4,225
無形固定資産		
投資その他の資産	122	100
投資有価証券	40,674	42,420
関係会社株式	24,000	-
長期未収入金	1,000,000	-
その他	7,603	8,083
投資その他の資産合計	1,072,278	50,503
固定資産合計	1,079,145	54,829
資産合計	4,768,002	4,546,769
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	96,529	6,884
未払法人税等	57,385	4,300
前受金	-	735
その他	115,006	6,010
流動負債合計	268,921	17,930
固定負債		
リース債務	2,081	847
繰延税金負債	321,640	321,615
退職給付引当金	21,843	22,198
固定負債合計	345,565	344,662
負債合計	614,486	362,592

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,121,437	2,121,437
資本剰余金	1,987,121	1,987,121
利益剰余金	71,285	100,836
自己株式	△34,465	△35,124
株主資本合計	4,145,379	4,174,271
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,135	9,905
評価・換算差額等合計	8,135	9,905
純資産合計	4,153,515	4,184,177
負債純資産合計	4,768,002	4,546,769



## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	366,346
売上原価	338,905
売上総利益	27,441
販売費及び一般管理費	79,203
営業損失(△)	△51,761
営業外収益	
受取利息	866
受取配当金	1,500
その他	1,097
営業外収益合計	3,464
営業外費用	
支払利息	158
その他	226
営業外費用合計	385
経常損失(△)	△48,682
特別利益	
関係会社清算益	79,687
特別利益合計	79,687
税引前四半期純利益	31,005
法人税、住民税及び事業税	1,454
法人税等合計	1,454
四半期純利益	29,550

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本等関係)

当第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。